

サッカースタジアムの形態に関する研究

東京理科大学
工学研究科 建築学科
坂牛研究室
4119075 土居 将洋
指導教員 坂牛 卓

Abstract

RESEARCH ON THE FORM OF SOCCER STADIUMS

Masahiro Doi

This study is intended to clarify important factors in determining the form of a soccer stadium. The target stadiums were broadly classified into seven types by form. This study was done in terms of country-specific classification, climatic conditions, and composition. It is concluded that

1. In location with high precipitation, linear forms are more common, whereas in places with low precipitation, curvilinear forms are more typical.
2. Most of the stadiums built between 1900 and 1940, have simple forms, and most of those built recently have more complex forms due to additional functions and purposes.
3. In stadiums with fewer seats, simple forms are common.

目次	
梗概	p. 008
第1章 序論	p. 011
1.1. 目的と内容	
1.2. 研究の対象	
1.3. 既往研究	
1.4. 研究方法	
第2章 国ごとの形態の違いに関する分析	p. 015
2.2. 対象スタジアムの分類	
2.2. 対象スタジアムの個数	
2.3. 国ごとの形態の分類	
第3章 敷地の分析	p. 021
3.1. 敷地の分析対象	
3.2. 降水量の分析	
第4章 構成に関する分析	p. 025
4.1. 構成に関する分析対象	
4.2. 竣工年の分析	
4.2. 客席数の分析	
第5章 総合的な分析	p. 029
5.1. 客席数の分析	
5.2. 竣工年の分析	
第6章 結論	p. 033
6.1. 結論	
6.2. 考察	
6.3. 今後の展開	
参考文献	p. 036
謝辞	p. 037
資料	p. 041

梗概

サッカースタジアムの形態に関する研究

坂牛研究室

4119075 土居 将洋

1. 研究の背景と目的

スタジアムの起源は古代ギリシアに遡る。スタジアムは球技をするフィールドとそれを囲む観客席から構成される。現代では、UEFA³³⁾が規定する”UEFA Guide to Quality Stadium(UEFA良質なスタジアム建設の手引き)”に基づき設計されている。基本的な構成は変わらないにも関わらず様々な形態のスタジアムが建設されている要因は何であろうか。

本研究は、スタジアムが立つ国やその土地の気候、その他のスタジアムの形態を決定する上で重要な要因を明らかにし、スタジアム設計のための有用な知見を得ることを目的とする。

2. 既往研究

既往研究として地域活性化のためのスタジアムの有効活用についての研究³²⁾や、サッカースタジアムの立地特性についての研究³³⁾や、サッカースタジアムの複合実態についての研究³⁴⁾などがある。本研究では形態を国民性や風土との関係で見た。

3. 研究対象

日本のJ1,J2リーグと欧州5大リーグ(ドイツ、スペイン、イングランド、イタリア、フランス)に所属するチームが本拠地として使用する、サッカーを主な用途とする³⁵⁾スタジアム、全98個を対象とする。

4. 研究方法

本研究は研究対象の98個のスタジアムを図面や公開情報などを元にデータを抽出し以下の3つの分析を行う。

分析1:スタジアムの形態を分類し国ごとの特徴を分析する。分析2:分析1で行った国ごとの形態の特徴について、気候や地理的条件と比較して分析する。分析3:竣工年や客席数と比較して分析

する。分析4:分析1~3を踏まえ、スタジアムの形態を決定する要因を分析する。

4.1. 分析1: 国ごとの形態の違いに関する分析

対象スタジアムの平面図から、建築物の外形線を抽出し分類する。全98スタジアムは大きく7種類(四角、長方形、角角、丸角、楕円、正円、その他)に大別することができた。(図1)この分類をもとに国ごとの割合を表にしたものを図3に示す。(図3)

4.2. 分析2: 敷地の分析

次に、各スタジアムの敷地における気候情報(平均気温、最高気温、最低気温、降水日数、降水量、標高)と比較し分析する。(図4)

4.3. 分析3: 構成に関する分析

次にスタジアムの構成に関する分析を行う。竣工年、建築面積、客席数、客席の勾配と比較し分析する。(図5~8)

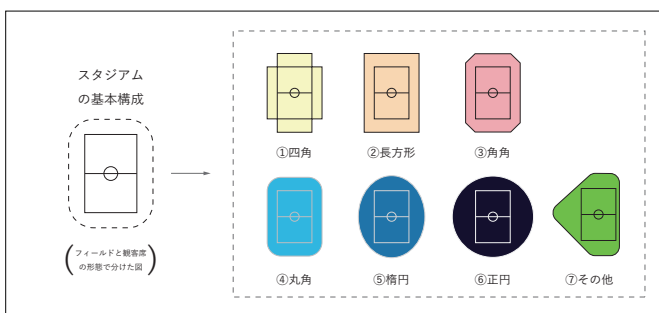
4.4. 分析4: 総合的な分析

分析1~3を踏まえて、スタジアムの形態が決定される要因を明らかにする。

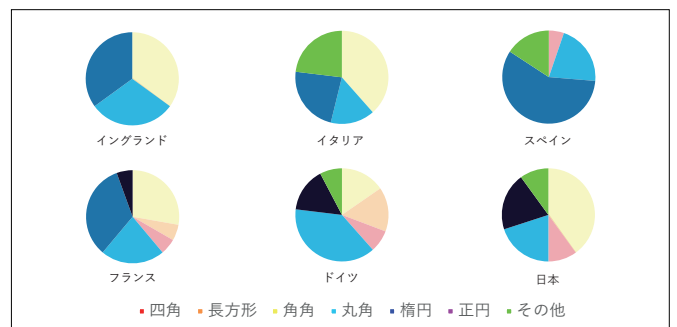
5. 結果

5.1. 国ごとの形態の違いに関する分析

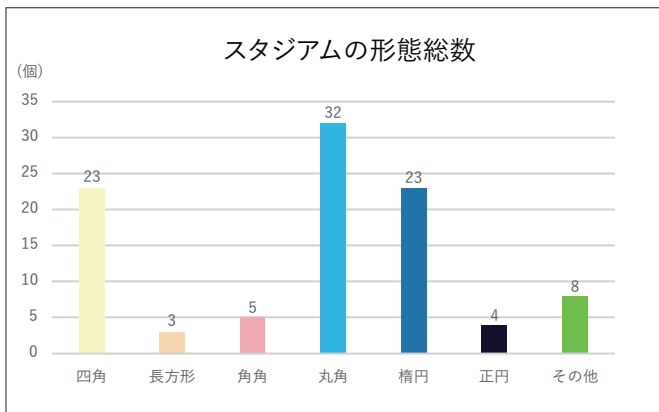
研究対象の98スタジアムは四角が23個、長方形3個、角角5個、丸角32個、楕円23個、正円4個、その他8個となった。(図2)次にこれを国ごとの割合で見る。(図3)イングランドでは四角35%、楕円が35%、丸角30%であり、ほぼ同じ割合で存在していた。イタリアでは四角が38%を閉めていた。スペインでは、楕円が58%をしめ、次いで丸角が21%であり、曲線的な形態が多かった。フランスで



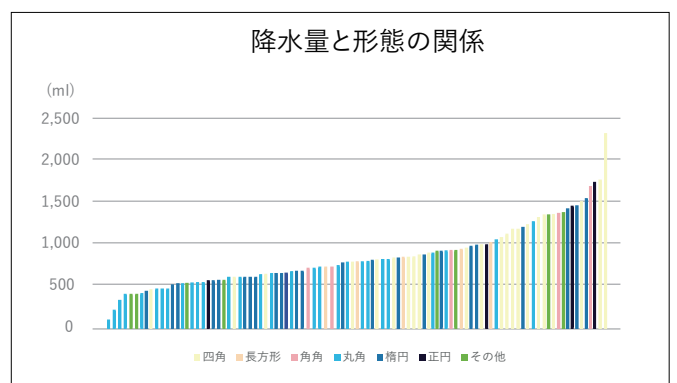
▲図1 スタジアムの分類



▲図3 スタジアム形態の国ごとの割合



▲図2 スタジアムの形態総数



▲図4 降水量と形態の関係

は、楕円33%、四角が28%、丸角22%であり、様々な形態があった。ドイツでは丸角が38%で一番多く、他の形態も見られた。日本では、四角が40%と最も多かった。

5.2. 敷地からの分析

次に、気候やその都市の人口と比較し分析を行う。敷地の緯度・経度、平均気温、最高気温、最低気温、降水量、標高と比較した。そのうち特に顕著な傾向が出たものは降水量であった。(図4) 降水量が多い土地では四角や長方形などの直線的な形態が多いのに対し、降水量が少ない土地では曲線的な形態が多いことがわかった。曲線的なスタジアムでは屋根が設置されていないものが多く、これらは、屋根を設置する際に曲線的な形態よりも直線的な形態の方が構造的に簡単に設置することができるためであると考えられる。

5.3. 構成に関する分析

スタジアムの竣工年、客席数、建築面積の分析を行う。1900年～1940年は四角・丸角などの建設がされている。(図5) これらの形態は、イングランドやイタリアなど古くよりサッカー文化が根付いていた地域に多い。当時の技術で作ることのできる比較的単純な形態であるためと考えられる。時代の変遷とともに他の形態のスタジアムが出現しているが、これは建設技術の飛躍的な進歩によるため、また近年のサッカースタジアムの複合化⁶⁵⁾に伴いスタジアムの形態が複雑化しているためであると考えられる。客席数については、少ない客席数の場合、四角や丸角などの単純な形態が多い傾向にある。(図6) これは必要最小限の客席で構成できる最も合理的な形態であるためだと考えられる。欧州に比べて国内リーグの

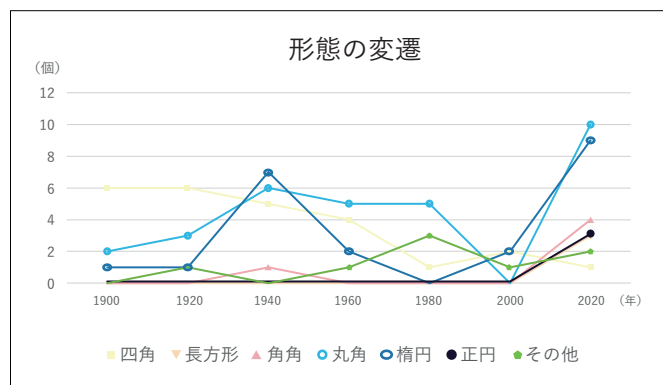
発足が遅かった日本⁶⁷⁾では客席が少ないスタジアムが多い。(図7) そのため、客席数の少ないスタジアムで有用な四角や丸角の形態が多くなっているものと考えられる。イタリアとフランスでも同じ理由から四角や丸角の形態が多く見られる。

5.4. 総合的な分析

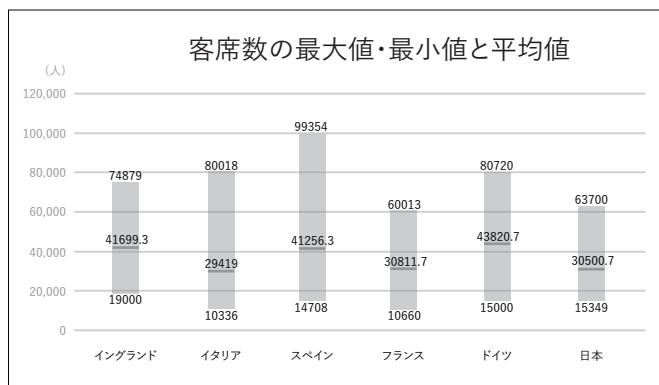
以上の分析を国ごとのスタジアムの竣工年を踏まえ分析する。(図8) イングランドは1900年から1920年代では、四角や丸角などの単純な形態が多く見られるが、近年では複合化・巨大化による形態の多様化が見られる。イタリアでは中小規模のスタジアムが多く、建設年代が1900年代から1940年に多いため、四角や丸角のものがあるが、特殊な形態も多くある。これは都市計画と土地利用の厳しい制約がある⁶⁸⁾国であるため建設にあたり様々な工夫がなされてきたためであると考えられる。スペインにおいて、曲線的な形態が多いことは降水量が非常に少ないことから屋根をかける必要がないことが挙げられる。ドイツ、フランスなどでは気候条件や建設年代にもばらつきがあり、様々な形態がある。日本では、建設年代は比較的新しいものが多く、規模の小さいものでは四角や丸角が多いが、大きいものでは様々な形が見受けられる。

6. 結論

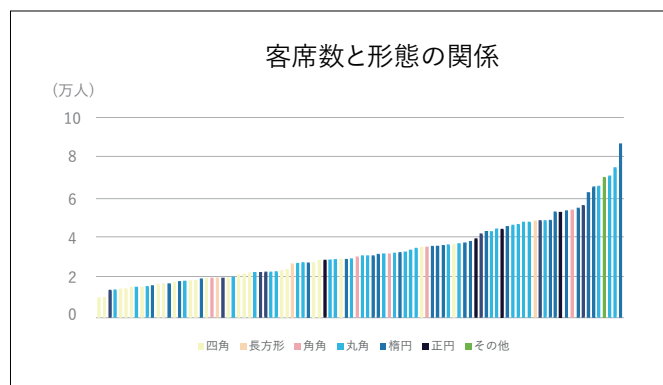
以上の分析より、地理的条件・スタジアムの構成によるスタジアム建設の傾向を捉えた。また技術進歩にも大きく起因していることがわかった。降水量の関係や客席数の関係からスタジアムの最適な形態を決定していることがわかった。この結果より、スタジアムの設計を行う際の有効な知見を得ることができた。



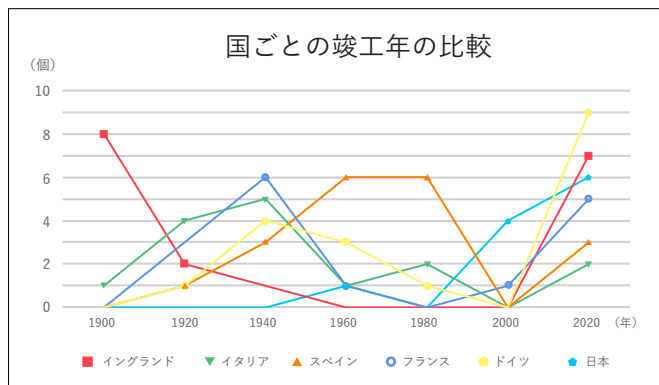
▲図5 スタジアムの竣工年と形態に関するグラフ



▲図7 国ごとの客席数の比較



▲図6 客席数と形態に関するグラフ



▲図8 国ごとのスタジアムの竣工年に関するグラフ

脚注：註1)《Union of European Football Associations》欧州サッカー連盟。欧州選手権（ユーロ）、チャンピオンズリーグ、UEFAカップなど欧州地域での国際大会を主催。
 註2)中山 恭一 他 「地域活性化のためのサッカースタジアムの有効活用に関する研究」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2014年9月 pp1009-1010
 註3)森田 一成 他 「Jリーグスタジアムの立地特性と周辺設備に関する研究」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2020年9月 pp579-580
 註4)齋藤 洋平 他 「サッカー競技場の複合実態に関する調査」『日本建築学会大会学術講演梗概集』2004年2月 pp85-88
 註5)本研究では、陸上トラックのある競技場を対象外とする。
 註6)註4の研究より、増改築に伴い複合施設化するスタジアムが増加しているとされている。
 註7)各国の国内リーグの発足は、イングランドが1888年、イタリアが1898年、スペインが1929年、フランスが1932年、ドイツが1962年、日本が1991年で日本が最も遅い。
 註8)工藤 裕子 「イタリアの都市計画と土地利用」『総合都市研究』第62号 1997より

第 1 章

序論

1.1. 目的と内容

スタジアムの起源は古代ギリシアに遡る。その頃より、スタジアムは競技をするフィールドとそれを囲む観客席から構成される。今日ではさまざまなスポーツがあり、そのスポーツを行うためのスタジアムも多種多様であるが、どのスポーツにおいてもフィールドとそれを囲む客席という構成は変わらない。一つのスポーツに限って見ても構成は同じでありながらさまざまな形態のスタジアムが作られている。本研究ではサッカースタジアムに焦点を絞り分析を行う。サッカースタジアムは現代では UEFA が規定する”UEFA Guide to Quality Stadium(UEFA 良質なスタジアム建設の手引き)”に基づき設計されている。基本的な構成は変わらないにも関わらず様々な形態のスタジアムが建設されている要因は何であろうか。

本研究は、スタジアムが立つ国やその土地の気候、その他のスタジアムの形態を決定する上で重要な要因を明らかにし、スタジアム設計のための有用な知見を得ることを目的とする。

1.2. 研究の対象

日本の J1, J2 リーグと欧州 5 大リーグに所属するチームが本拠地として使用するスタジアム、全 98 個を対象とする。欧州 5 大リーグとは、サッカー文化が世界の中でも特に盛んなイングランド、イタリア、フランス、ドイツ、フランスの国内リーグを総称したものである。これらの国はスタジアムの建設も盛んで最先端の技術を駆使して作られたスタジアムも多い。近年、サッカー文化が根つき始めた日本のスタジアムも同時に分析し、国や年代による違いやその要因を明らかにすることを試みる。

1. 3 . 既往研究

本節では、サッカースタジアムを対象とした既往研究について概観し、本研究の意義を述べる。

サッカースタジアムを対象とした研究として、地域活性化のためのスタジアムの有効活用についての研究や、サッカースタジアムの立地特性についての研究や、サッカースタジアムの複合実態についての研究などがある。以下にそれらを列挙する。

- ・地域活性化のためにサッカースタジアムを活用する方法に着目し研究を行ったもの
- ・J リーグのスタジアムが建てられている敷地の特質や、その周辺の環境に着目し研究したもの
- ・近年増加しているサッカースタジアムの複合施設化に着目し研究したもの

サッカースタジアムの形態に着目し研究した論文は見当たらない。

1. 4 . 研究方法

本研究は研究対象の 98 個のスタジアムを図面や公開情報などを元にデータを抽出し以下の 4 つの分析を行う。

(2 章) 分析 1: 対象のスタジアムを形態ごとに分類し、それらを国ごとに分析し特徴を見る。(3 章) 分析 2: 分析 1 で行った国ごとの形態の特徴について、スタジアムがたつ敷地の気候や地理的条件と比較してその特徴を分析する。(4 章) 分析 3: 各スタジアムの竣工年や客席数などの構成の観点と比較して分析する。(5 章) 分析 4: 分析 1~3 を踏まえ、スタジアムの形態を決定する要因を総合的に分析する。

【脚注】

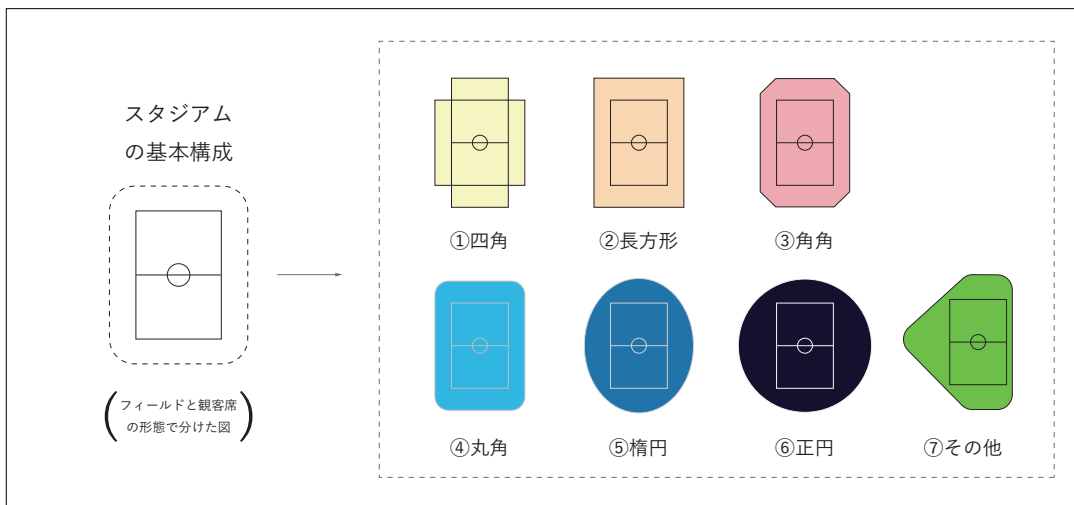
- 1) 参考文献 1 2) 参考文献 2 3) 参考文献 3

第2章

国ごとの形態の違いに関する分析

2.1. 対象スタジアムの分類

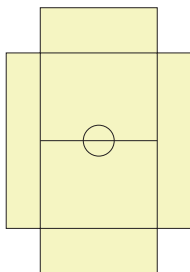
対象スタジアムの98個のスタジアムの平面図や公開情報から、建築物の外形線を抽出し分類する。ここで抽出した外形線はフィールドや客席、そのほかの複合施設を含めた建築物の外形線とする。全98スタジアムは大きく7種類に大別することができた。



▲fig. 2.1.1 スタジアムの分類

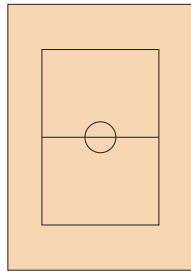
①四角

この形態はフィールドの各4辺に四角形の客席がついた形態である。



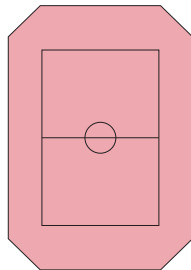
②長方形

この形態は客席がフィールドを囲んでおりその外形線がフィールドと平行の4つの線のできた長方形の形をなしているものである。



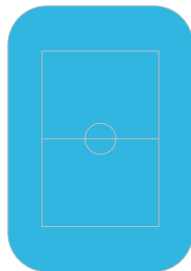
③角角

この形態は客席がフィールドを囲んでおりその外形線の角が直線になった形態である。



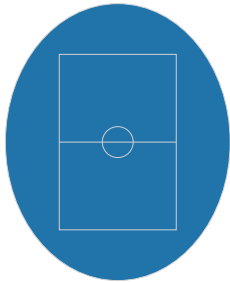
④丸角

この形態は客席がフィールドを囲んでおりその外形線の角が曲線になった形態である。



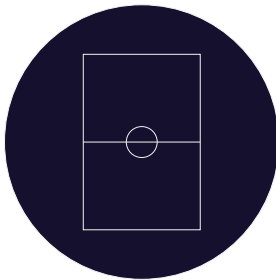
⑤楕円

この形態は客席がフィールドを囲んでおり外形線が楕円形になっているものである。④角角と異なり、フィールドと平行な外形線がない。



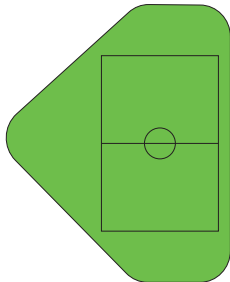
⑥正円

この形態は客席がフィールドを囲んでおり外形線が声援系になったものである。⑤楕円と異なり、平面形状の縦横比率がほぼ等しいものである。



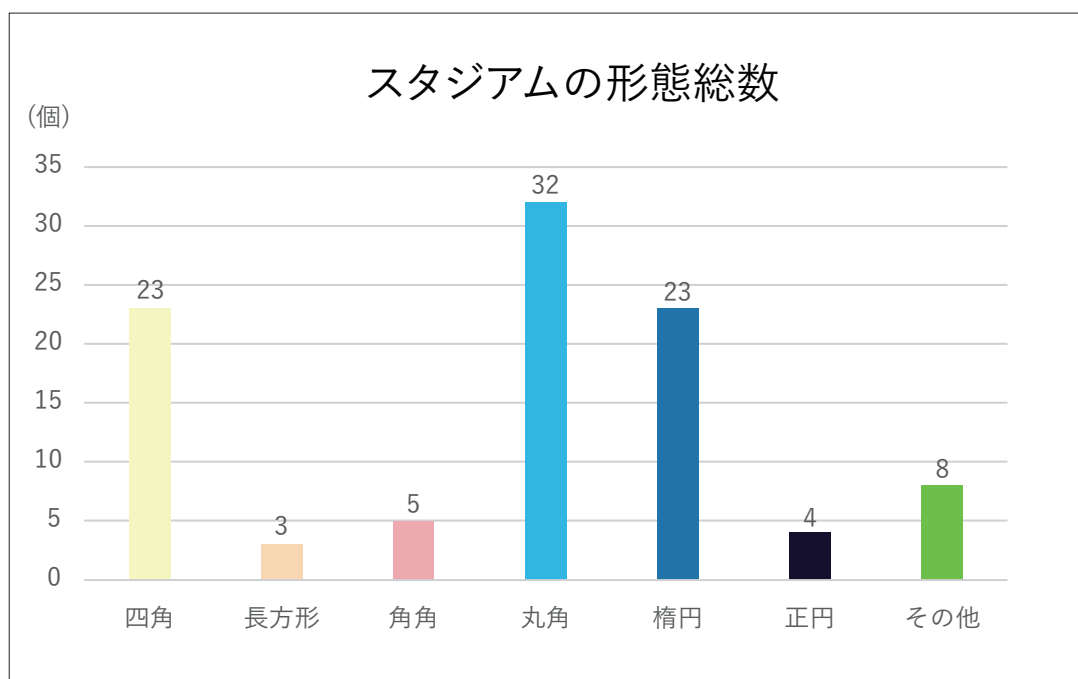
⑦その他

この形態は①～⑥の分類に入らない形態である。特殊な形態のものはないが半分は丸角、半分は四角であったりほかの形態の合わさったものが多い。



2. 2. 対象スタジアムの個数

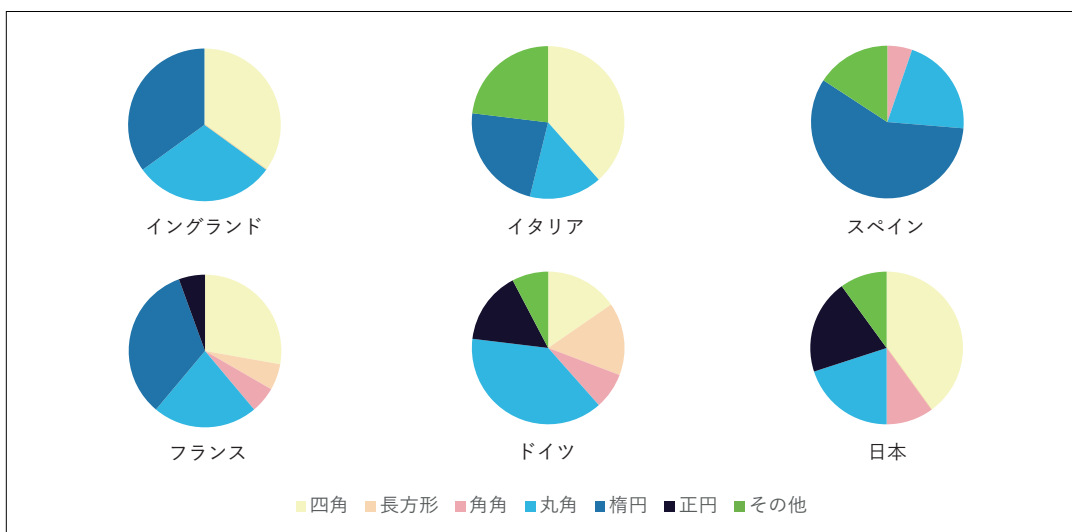
これらの7種類の形態の個数は以下の通りであった。最も多い形態は丸角で32個、次いで四角と楕円が23個であった。そのほかの形態はその他が8個、角角が5個、正円が4個、長方形が3個であり非常に少なくなっていた。



▲fig. 2. 2. 1 スタジアムの形態総数

2.3. 国ごとの形態の分類

この分類をもとに国ごとの割合を表にしたものが以下の図である。



▲fig. 2.3.1 国ごとの形態の分類

イングランドでは四角 35%、楕円が 35%、丸角 30% であり、3 個の形態がほぼ同じ割合で存在していた。イタリアでは四角が 38% を閉めており、他国に比べてその他の形態も多く見られた。スペインでは、楕円が 58% をしめ、次いで丸角が 21% であり、曲線的な形態が多かった。フランスでは、楕円 33%、四角が 28%、丸角 22% であり、様々な形態があった。ドイツでは丸角が 38% で一番多く、直線的な形態も曲線的な形態も見られた。日本では、四角が 40% と最も多かった。

第3章

敷地の分析

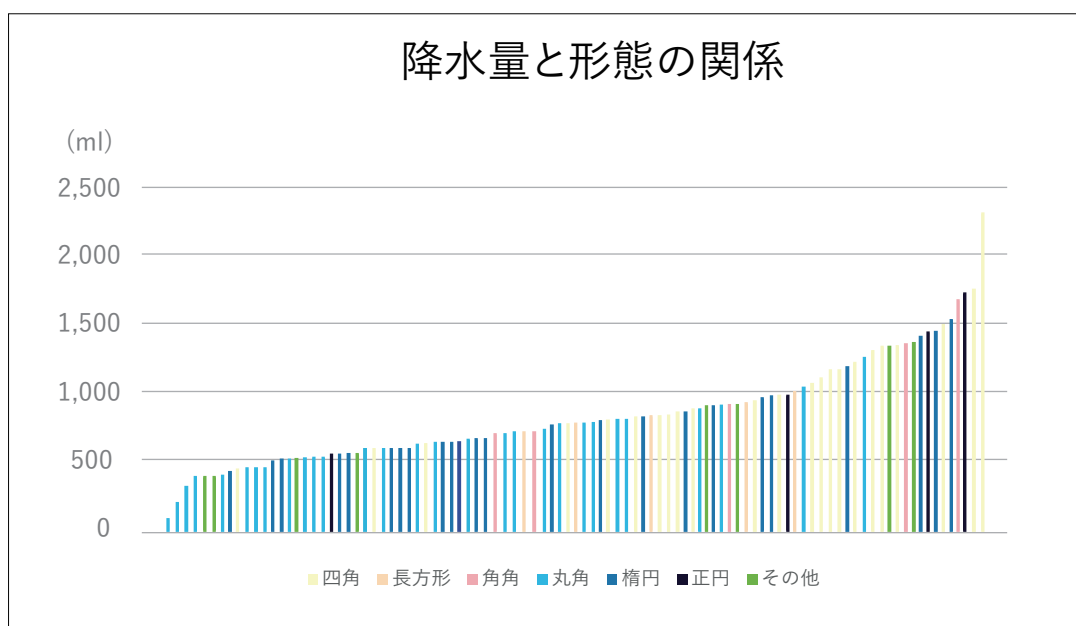
3. 1. 敷地の分析対象

次に、各スタジアムの敷地における気候情報と比較し分析する。敷地の緯度・経度、平均気温、最高気温、最低気温、降水量、標高、人口と比較した。

この中で、形態と気温の関係は一切見られなかった。全体の形態としては気温による変化は一切見られないことがわかった。また標高に関しても形態との関係は見られなかった。また人口についてもスタジアムの規模との関わりは見られたが、形態とその都市の人口との間に傾向は見られなかった。

3.2. 降水量の分析

次に特に顕著な傾向が出た降水量との比較のグラフである。



▲fig. 3.2.1 降水量と形態の関係

降水量が多い土地では四角や長方形などの直線的な形態が多いのに対し、降水量が少ない土地では曲線的な形態が多いことがわかった。曲線的なスタジアムでは屋根が設置されていないものも多く、これらは、屋根を設置する際に曲線的な形態よりも直線的な形態の方が構造的に簡単に設置することができるためであると考えられる。

第4章

構成に関する研究

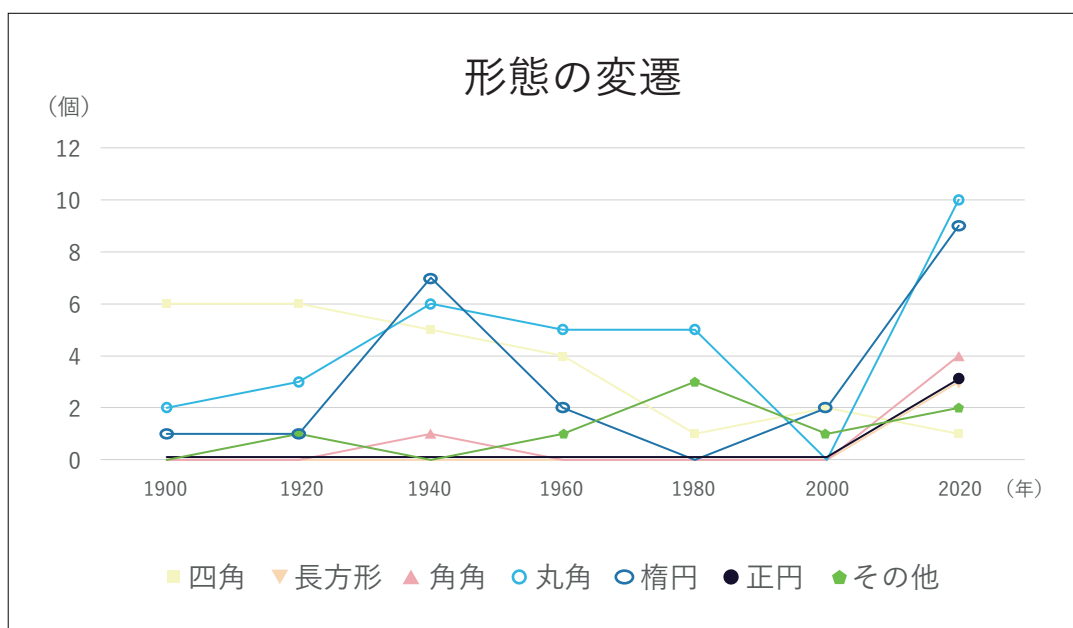
4.1. 構成に関する研究対象

次にスタジアムの構成に関する研究を行う。竣工年、客席数、建築面積、長手寸法、短手寸法、客席寸法、最高高さと比較し分析する。

このうち、建築面積に関しては小さいものも大きいものも形態との関連は見られなかった。長手・短手寸法も形態ごとの特徴は見られたが、形態を決定する要因までは見られなかった。客席の寸法や勾配も規模や客席数との関連は見られたが、全体の形態を決定する傾向は見られなかった。

4. 2 . 竣工年の分析

スタジアムの竣工年、客席数、建築面積の分析を行う。1900年～1940年は四角・丸角などの建設がされている。

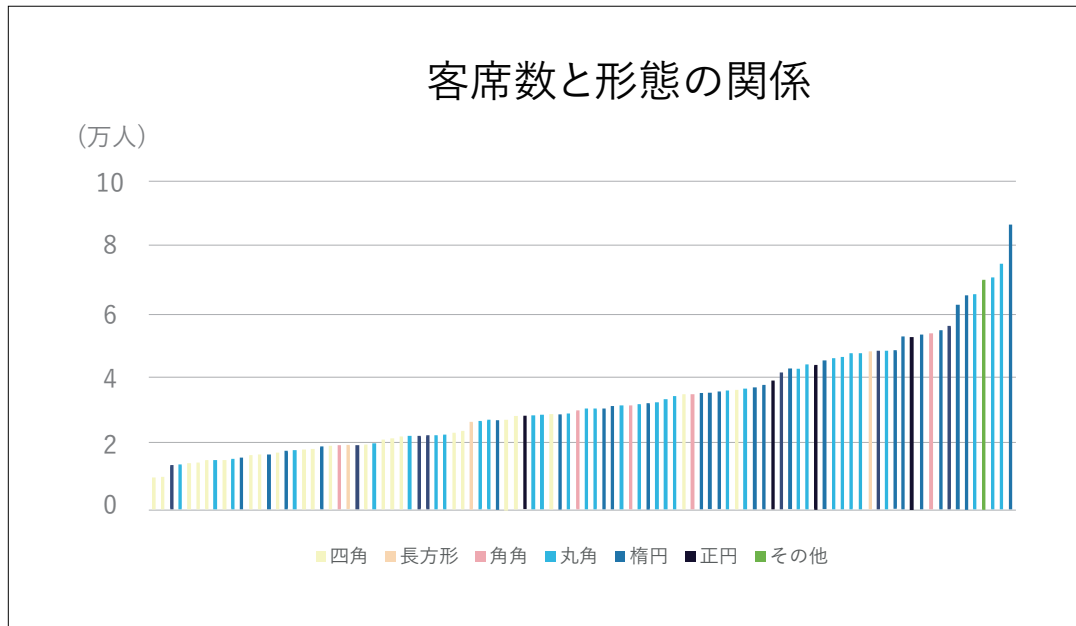


▲fig. 4. 2. 1 形態の変遷

これらの形態は、イングランドやイタリアなど古くよりサッカー文化が根付いていた地域に多い。当時の技術で作ることのできる比較的単純な形態であるためと考えられる。時代の変遷とともに他の形態のスタジアムが出現しているが、これは建設技術の飛躍的な進歩によるため、また近年のサッカースタジアムの複合化に伴いスタジアムの形態が複雑化しているためであると考えられる。

4.3. 客席数の分析

客席数と形態の関係についてのグラフである。



▲fig. 4.3.1 客席数と形態の関係

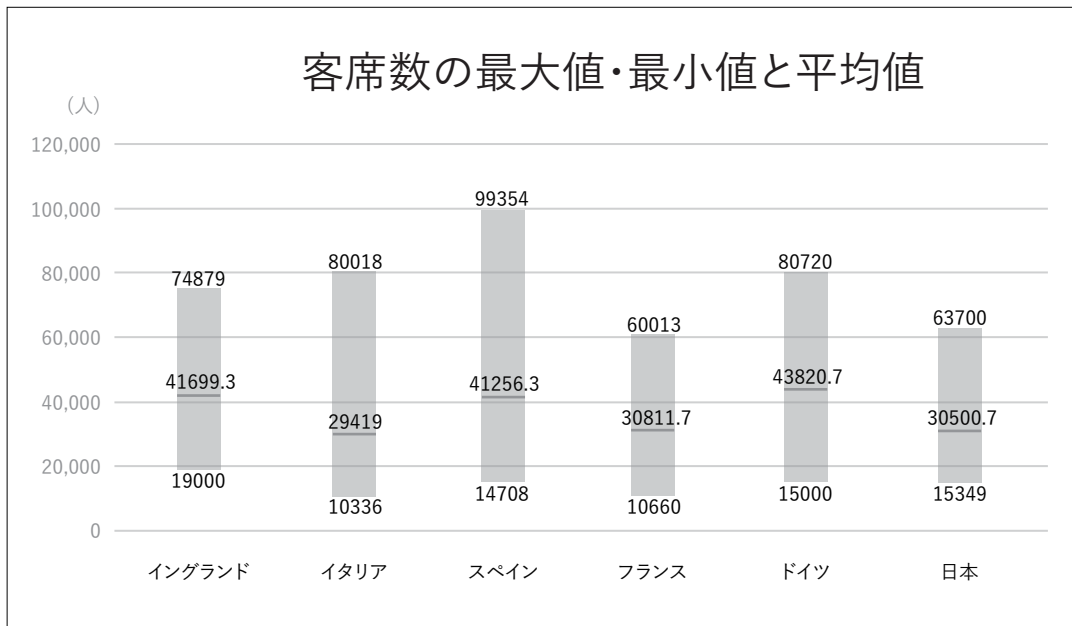
客席数については、少ない客席数の場合、四角や丸角などの単純な形態が多い傾向にある。これは必要最小限の客席で構成できる最も合理的な形態であるためだと考えられる。欧州に比べて国内リーグの発足が遅かった日本では客席が少ないスタジアムが多い。そのために、客席数の少ないスタジアムで有用な四角や丸角の形態が多くなっているものと考えられる。イタリアとフランスでも同じ理由から四角や丸角の形態が多く見られる。

第 5 章

総合的な分析

5.1. 客席数の分析

以上の分析を国ごとのスタジアムの竣工年を踏まえ分析する。

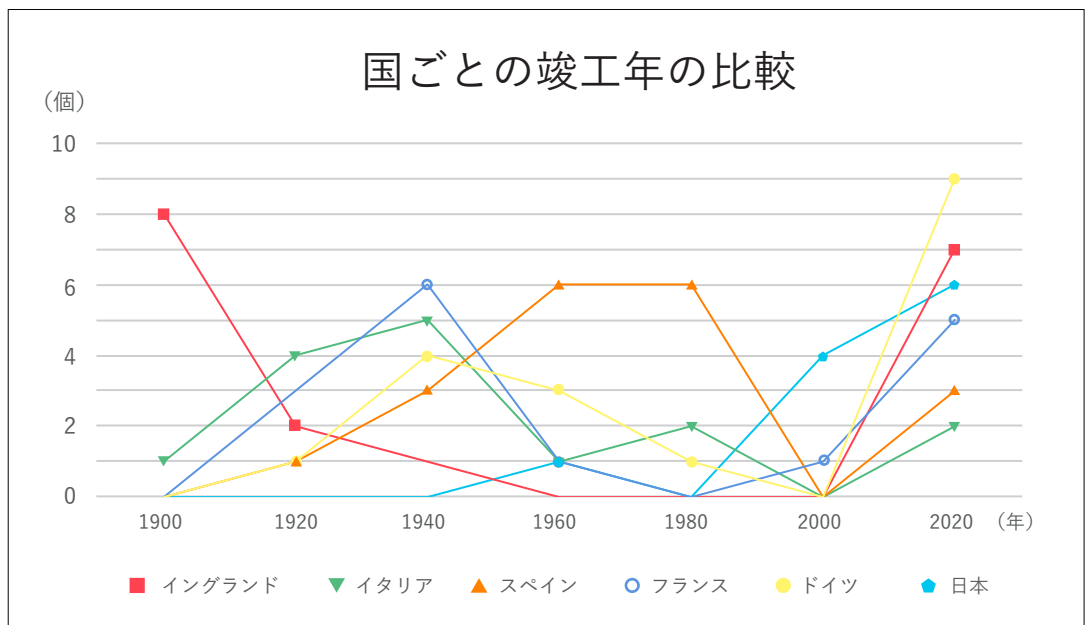


▲fig. 5.1.1 国ごとの客席数の比較

イングランドやスペイン、ドイツでは平均的に客席数が多いことが読み取れる。一方でイタリア、フランス、日本は平均の客席数が40,000人を下回っていることがわかる。

5.2 . 竣工年の分析

20年ごとにスタジアムが竣工した数を国別に比較した図である。



▲fig.5.2.1 国ごとの客席数の比較

スタジアムの竣工年、客席数、建築面積の分析を行う。1900年～1940年は四角・丸角などの建設がされている。これらの形態は、イングランドやイタリアなど古くよりサッカー文化が根付いていた地域に多い。当時の技術で作ることのできる比較的単純な形態であるためと考えられる。時代の変遷とともに他の形態のスタジアムが出現しているが、これは建設技術の飛躍的な進歩によるため、また近年のサッカースタジアムの複合化に伴いスタジアムの形態が複雑化しているためであると考えられる。

第 6 章

結論

6. 1. 結論

以上の分析より、地理的条件・スタジアムの構成によるスタジアム建設の傾向を捉えた。また技術進歩にも大きく起因していることがわかった。降水量の関係や客席数の関係からスタジアムの最適な形態を決定していることがわかった。この結果より、スタジアムの設計を行う際の有効な知見を得ることができた。

結論は以下の通りである。

対象のスタジアムは七種類に大別することができた。本分析は国ごとの分類、気候条件、構成の観点から行われた。

1. 降水量の多い土地では直線的な形態が多いのに対し、降水量が少ない土地では曲線的な形態が多かった。
2. 1900年から1940年にかけては単純な形態のスタジアムが多く、近年ではスタジアムの複合化に伴い複雑な形態も多く見られた。
3. 客席数が少ないスタジアムでは単純な形態が多かった。

6. 2. 考察

イングランドは1900年から1920年代では、四角や丸角などの単純な形態が多く見られるが、近年では複合化・巨大化による形態の多様化が見られる。イタリアでは中小規模のスタジアムが多く、建設年代が1900年代から1940年に多いため、四角や丸角のものがあるが、特殊な形態も多くある。これは都市計画と土地利用の厳しい制約がある国であるため建設にあたり様々な工夫がなされてきたためであると考えられる。スペインにおいて、曲線的な形態が多いことは降水量が非常に少ないことから屋根をかける必要がないことが挙げられる。ドイツ、フランスなどでは気候条件や建設年代にもばらつきがあり、様々な形態がある。日本では、建設年代は比較的新しいものが多く、規模の小さいものでは四角や丸角が多いが、大きいものでは様々な形が見受けられる。

【脚注】

- 4) 参考文献 4

6.3. 今後の展開

本研究ではスタジアムの形態と敷地の条件、構成に関する比較から分析を試みた。

今後の展望としては、環境や構造的な観点からも形態を決定される論理を明らかにすることを考える必要がある。具体的には、スタジアムの吹き込む風の方向や風量であったり、降雨による屋根形状であったり、構造的な合理性からどのように形態が決定されているかなどである。

参考文献

[参考文献]

- 1) 中山 恭一 他 「地域活性化のためのサッカースタジアムの有効活用に関する研究」『日本建築学会大会学術講演梗概集』 2014 年 9 月 pp1009-1010

- 3) 森田 一成 他 「Jリーグスタジアムの立地特性と周辺設備に関する研究」『日本建築学会大会学術講演梗概集』 2020 年 9 月 pp579-580

- 4) 齋藤 洋平 他 「サッカー競技場の複合実態に関する調査」『日本建築学会大会学術講演梗概集』 2004 年 2 月 pp85-88

- 8) 工藤 裕子 「イタリアの都市計画と土地利用」『総合都市研究』 第62号 1997

謝辭

本研究を卒業論文として形にすることができたのは、指導教官である坂牛卓教授、そして博士課程の堀江さん、チューターである修士課程の曾根さんを初めご指導くださった全ての方々のお力添えがあつてこそその成果であります。お忙しい中、時間を作っていただいた皆様に改めて感謝申し上げます。

また、資料を集める際に参考の文献や集め方などを教えていただいた元坂牛研究室の平野さんにもここで改めて感謝申し上げます。

皆様、本当にありがとうございました。

2022年11月14日 土居 将洋

資料

研究対象一覧

研究対象の資料数は以下の通りである。

イングランド	・・・20個
イタリア	・・・13個
スペイン	・・・19個
フランス	・・・18個
ドイツ	・・・18個
日本	・・・10個

イングランド	フランス
クレイブン・コテージ	スタッド・フランソワ・コティ
ターフ・ムーア	スタッド・アルマン・チェサーリ
セルハースト・パーク	スタッド・デュ・ルドゥル
ザ・アメリカン・エクスプレス・コミュニティ・スタジアム	スタッド・ドゥ・ムストワ
モリニュー・スタジアム	スタッド・ルイ・ドゥ
キングパワー・スタジアム	スタッド・オーギュスト・ボナル
セント・メリーズ・スタジアム	オーギュスト・ドロヌ
ヴィラ・パーク	スタッド・ドゥ・エノー
ブラモール・レーン	ルテ・ドゥ・ロリアン
ザ・ホーソーンズ	スタッド・デ・ラ・モソン
エランド・ロード	スタッド・シャバン・デルマ
グディソン・パーク	スタジアム・ミュニシパル・ドゥ・トゥルーズ
スタンフォード・ブリッジ	アリアンツ・リヴィエラ
セント・ジェームズ・パーク	スタッド・ジョフロア・ギシャール
アンフィールド	スタッド・ジェルラン
エティハド・スタジアム	バルク・デ・フランス
ロンドンスタジアム	グラン・スタッド・リール・メトロポール
エミレーツスタジアム	スタッド・ヴェロドローム
トッテナム・ホットスパススタジアム	ドイツ
オールド・トラフォード	ベンテラー・アレナ
イタリア	ラインエネルギー・シュタディオン
スタディオ・アルベルト・ピッコ	シュタディオン・アン・デア・アルテン・フェルステライ
サレルデーニャ・アレナ	シュバルツバルト・シュタディオン
スタディオ・エツィオ・シーダ	フォルクスワーゲン・アレナ
スタディオ・チーロ・ヴィゴリート	ヴィルソル・ライン=ネッカー・アレナ
スタディオ・アトレティ・アズーリ・ディターリア	WWKアレナ
マペイ・スタジアム	オベル・アレナ
スタディオ・エンニオ・タルディーニ	ヴェーザーシュタディオン
ダチア・アレナ	レッドブル・アレナ
スタディオ・コムナレ・ルイジ・フェッラーリス	バイ・アレナ
スタディオ・レナート・ダッラーラ	コメルツバンク・アレナ
アリアンツ・スタジアム	ボルシア・バルク
スタディオ・アルテミオ・フランキ	メルクール・シュビール・アレナ
スタディオ・ジュゼッペ・メアッツァ	フェルティンス・アレナ
スペイン	アリアンツ・アレナ
カンボ・デ・フットボル・デ・バジェカス	オリンピアシュタディオン
アルフォンソ・ペレス	ジグナル・イドゥナ・バルク
エル・サダール	日本
デ・ラ・セラミカ	三協フロンティア柏スタジアム
ラモン・デ・カランサ	NACK5スタジアム大宮
シウダ・デ・バレンシア	フクダ電子アリーナ
アノエタ	IAIスタジアム日本平
ラ・ロマレーダ	サンガスタジアム
リアソル	ベストアメニティスタジアム
マヌエル・マルティネス・バレーロ	Panasonic Stadium Suita
ラ・ロサレーダ	茨城県立カシマサッカースタジアム
サン・マメス	豊田スタジアム
コルネリャ・エル=プラット	埼玉スタジアム2002
ラモン・サンチェス・ピスファン	
ベニート・ビジャマリン	
ピセンテ・カルデロン	
メスタージャ	
サンティアゴ・ベルナベウ	
カンパ・ノウ	

クレイブン・コテージ



竣工年：1896
客席数：19000
敷地：ロンドン
形態：四角

ターフ・ムーア



竣工年：1883
客席数：21944
敷地：バーンリー
形態：四角

セルハースト・パーク



竣工年：1924
客席数：26047
敷地：ロンドン
形態：四角

ザ・アメリカン・エクスプレス・コミュニティ・スタジアム



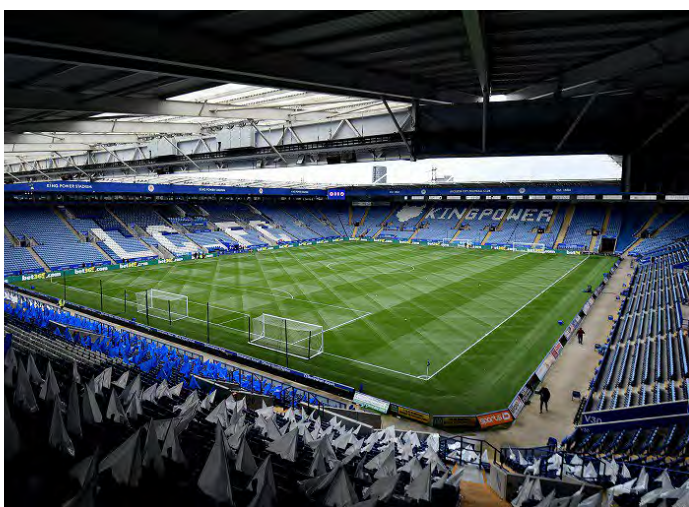
竣工年：2011
客席数：30666
敷地：ブライトン
形態：楕円

モリニュー・スタジアム



竣工年：1889
客席数：32050
敷地：ウルヴァーハン
プトン
形態：四角

キングパワー・スタジアム



竣工年：2002
客席数：32273
敷地：レスター
形態：丸角

セント・メリーズ・スタジアム



竣工年：2001

客席数：32384

敷地：サウサンプトン

形態：丸角

ヴィラ・パーク



竣工年：1897

客席数：32682

敷地：バーミンガム

形態：四角



竣工年：1855

客席数：32702

敷地：シェフィールド

形態：楕円

ザ・ホーソーンズ



竣工年：1900

客席数：36850

敷地：ウェスト・ブロ

ムウィッチ

形態：丸角

エランド・ロード



竣工年：1919
客席数：37890
敷地：リーズ
形態：丸角

グディソン・パーク



竣工年：1892
客席数：39571
敷地：リヴァプール
形態：四角

スタンフォード・ブリッジ



竣工年：1877
客席数：40853
敷地：ロンドン
形態：丸角

セント・ジェームズ・パーク



竣工年：1892
客席数：52338
敷地：ニューカッスル・
アポン・タイン
形態：丸角

アンフィールドド



竣工年：1884
客席数：54074
敷地：リヴァプール
形態：四角

エティハド・スタジアム



竣工年：2003
客席数：55017
敷地：マンチェスター
形態：楕円

ロンドン・スタジアム



竣工年：2011
客席数：60000
敷地：ロンドン
形態：楕円

エミレーツ・スタジアム



竣工年：2006
客席数：60704
敷地：ロンドン
形態：楕円

トッテナム・ホットスパースタジアム



竣工年：2019
客席数：62062
敷地：ロンドン
形態：楕円

オールド・トラフォード



竣工年：1910
客席数：74879
敷地：マンチェスター
形態：丸角

カンポ・デ・フトボル・デ・バジェカス



竣工年：1976

客席数：14708

敷地：マドリード

形態：その他

アルフォンソ・ペレス



竣工年：1998

客席数：17393

敷地：ヘタフェ

形態：楕円

エル・サダール



竣工年：1967

客席数：23576

敷地：パンプローナ

形態：丸角

デ・ラ・セラミカ



竣工年：1923

客席数：25000

敷地：バレンシア

形態：丸角

ラモン・デ・カランサ



竣工年：1955
客席数：25033
敷地：カディス
形態：その他

シウダ・デ・バレンシア



竣工年：1969
客席数：25354
敷地：バレンシア
形態：丸角

アノエタ



竣工年：1993

客席数：32076

敷地：サン・セバスティ

アン

形態：正円

ラ・ロマレーダ



竣工年：1957

客席数：34596

敷地：サラゴサ

形態：丸角

リアソル



竣工年：1944

客席数：34600

敷地：ア・コルーニャ

形態：丸角

マヌエル・マルティネス・バレーロ



竣工年：1976

客席数：36017

敷地：エルチェ

形態：丸角

ラ・ロサレーダ



竣工年：1941
客席数：38963
敷地：マラガ
形態：丸角

サン・マメス



竣工年：1913
客席数：40000
敷地：バルセロナ
形態：楕円

コルネリャ・エル＝プラット



竣工年：2009

客席数：40500

敷地：バルセロナ

形態：楕円

ラモン・サンチェス・ピスファン



竣工年：1957

客席数：48649

敷地：セビリア

形態：丸角

ベニート・ビジャマリン



竣工年：1929
客席数：52745
敷地：セビリア
形態：丸角

ビセンテ・カルデロン



竣工年：1966
客席数：54851
敷地：マドリード
形態：その他

メスタージャ



竣工年：1923

客席数：55000

敷地：バレンシア

形態：丸角

サンティアゴ・ベルナベウ



竣工年：1947

客席数：85454

敷地：マドリード

形態：丸角

キャンプ・ノウ



竣工年：1957

客席数：99354

敷地：バルセロナ

形態：楕円

スタッド・フランソワ・コティ



竣工年：1969

客席数：10660

敷地：アジャクシオ

形態：四角

スタッド・アルマン・チェサーリ



竣工年：1932

客席数：16480

敷地：バスティア

形態：丸角

スタッド・デュ・ルドウル



竣工年：1990

客席数：18250

敷地：ガンガン

形態：四角

スタッド・ドゥ・ムストワ



竣工年：1959
客席数：18500
敷地：ロリアン
形態：四角

スタッド・ルイ・ドゥ



竣工年：1985
客席数：18523
敷地：モナコ
形態：楕円

スタッド・オーギュスト・ボナール



竣工年：1931

客席数：20005

敷地：モンベリアル

形態：丸角

オーギュスト・ドロージュ



竣工年：2008

客席数：21684

敷地：ランス

形態：長方形

スタッド・ドゥ・エノー



竣工年：2011

客席数：25172

敷地：ヴァランシエン

ヌ

形態：丸角

ルテ・ドゥ・ロリアン



竣工年：1912

客席数：31127

敷地：レンヌ

形態：四角

スタッド・デ・ラ・モソン



竣工年：1910

客席数：32950

敷地：モンペリエ

形態：丸角

スタッド・シャバン・デルマ



竣工年：1924

客席数：34694

敷地：ボルドー

形態：楕円

スタジアム・ミュニシパル・ドゥ・トゥルーズ



竣工年：1937

客席数：35472

敷地：トゥルーズ

形態：楕円

アリアンツ・リヴィエラ



竣工年：2013

客席数：35624

敷地：ニース

形態：丸角

スタッド・ジョフロア・ギンヤール



竣工年：1931
客席数：35700
敷地：サン＝テティエ
ンヌ
形態：角角

スタッド・ジェルラン



竣工年：1926
客席数：41044
敷地：リヨン
形態：四角

パルク・デ・フランス



竣工年：1897
客席数：48527
敷地：パリ
形態：楕円

グラン・スタッド・リール・メトロポール



竣工年：2012
客席数：50186
敷地：リール
形態：丸角

スタッド・ヴェロドローム



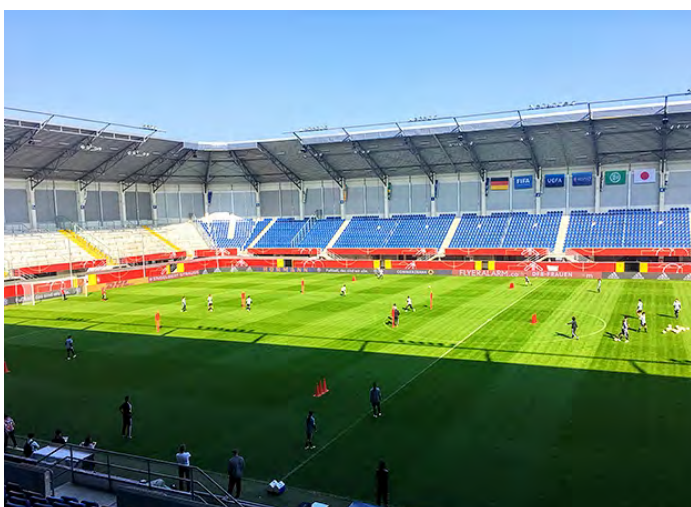
竣工年：1937

客席数：60013

敷地：マルセイユ

形態：正円

ベンテラー・アレナ



竣工年：2008

客席数：15000

敷地：パーターボルン

形態：丸角

ラインエネルギー・シュタディオン



竣工年：1923
客席数：20374
敷地：ケルン
形態：四角

シュタディオン・アン・デア・アルテン・フェルステライ



竣工年：1920
客席数：21717
敷地：ベルリン
形態：その他

シュバルツバルト・シュタディオン



竣工年：1954

客席数：24000

敷地：フライブルグ

形態：四角

フォルクスワーゲン・アリーナ



竣工年：2002

客席数：30000

敷地：ヴォルフスブルク

ク

形態：長方形

ヴィルソン・ライン＝ネッカー・アリーナ



竣工年：2009

客席数：30150

敷地：ホッフエンハイ

ム

形態：丸角

WWK アリーナ



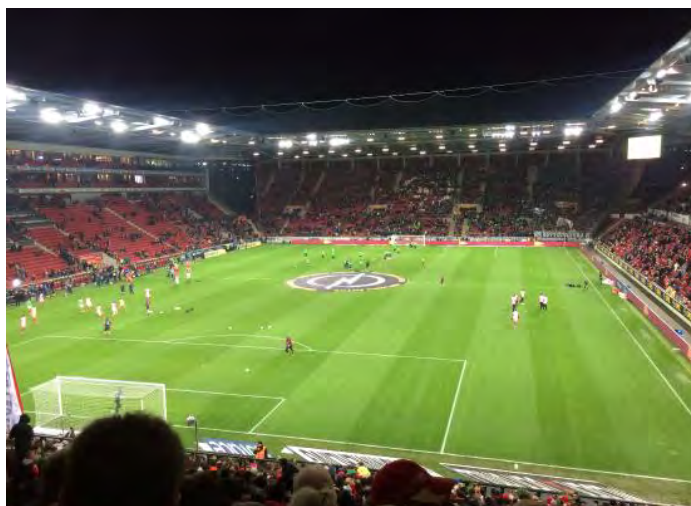
竣工年：2009

客席数：30660

敷地：アウグスブルク

形態：丸角

オペル・アリーナ



竣工年：2011
客席数：34000
敷地：マインツ
形態：角角

ヴェーザーシュタディオン



竣工年：1924
客席数：42100
敷地：ブレーメン
形態：楕円

レッドブル・アレナ



竣工年：1956
客席数：42959
敷地：ライプツィヒ
形態：楕円

バイ・アレーナ



竣工年：1956
客席数：50210
敷地：レヴァークーゼン
形態：正円

コメルツバンク・アリーナ



竣工年：1925

客席数：51500

敷地：フランクフルト

形態：楕円

ボルシア・パルク



竣工年：2004

客席数：54057

敷地：メンヒェング

ラードバッハ

形態：丸角

メルクル・シュピール・アリーナ



竣工年：2004

客席数：54600

敷地：デュッセルドル
フ

形態：長方形

フェルティンス・アリーナ



竣工年：2001

客席数：60941

敷地：ゲルゼンキル
ヒェン

形態：角角

アリアンツ・アリーナ



竣工年：2005

客席数：71137

敷地：ミュンヘン

形態：楕円

オリンピックシュタディオン



竣工年：1936

客席数：74696

敷地：ベルリン

形態：楕円

ジグナル・イドゥナ・パルク



竣工年：1974

客席数：80720

敷地：ドルトムント

形態：丸角

スタディオ・アルベルト・ピッコ



竣工年：1919

客席数：10336

敷地：スペツィア

形態：四角

サレルデーニャ・アリーナ



竣工年：2017
客席数：16416
敷地：カリアリ
形態：四角

スタディオ・エツィオ・シーダ



竣工年：1946
客席数：16547
敷地：クロトーネ
形態：四角

スタディオ・チーロ・ヴィゴリート



竣工年：1979

客席数：16867

敷地：ベネヴェント

形態：丸角

スタディオ・アトレティ・アズーリ・ディターリア



竣工年：1928

客席数：21300

敷地：ベルガモ

形態：楕円

マペイ・スタジアム



竣工年：1995

客席数：21525

敷地：サッスオーロ

形態：四角

スタディオ・エンニオ・タルディーニ



竣工年：1924

客席数：22352

敷地：パルマ

形態：丸角

ダチア・アリーナ



竣工年：1976
客席数：25132
敷地：ウディネ
形態：その他

スタディオ・コムナーレ・ルイジ・フェッラーリス



竣工年：1911
客席数：26703
敷地：ジェノヴァ
形態：四角

スタディオ・レナート・ダッラーラ



竣工年：1927

客席数：36462

敷地：ボローニャ

形態：楕円

アリアンツ・スタジアム



竣工年：2011

客席数：41507

敷地：トリノ

形態：丸角

スタディオ・アルテミオ・フランキ



竣工年：1931

客席数：47282

敷地：フィレンツェ

形態：その他

スタディオ・ジュゼッペ・メアツァ



竣工年：1926

客席数：80018

敷地：ミラノ

形態：その他

三協フロンティア柏スタジアム



竣工年：1985
客席数：15349
敷地：柏市
形態：四角

NACK5 スタジアム大宮



竣工年：1960
客席数：15500
敷地：さいたま市
形態：四角

フクダ電子アリーナ



竣工年：2005
客席数：19781
敷地：千葉市
形態：楕円

IAI スタジアム日本平



竣工年：1991
客席数：20248
敷地：静岡市
形態：四角

サンガスタジアム



竣工年：2020
客席数：21670
敷地：亀岡市
形態：角角

ベストアメニティスタジアム



竣工年：1996
客席数：24682
敷地：鳥栖市
形態：四角

パナソニックスタジアム吹田



竣工年：2015
客席数：39694
敷地：吹田市
形態：角角

カシマサッカースタジアム



竣工年：2001
客席数：40003
敷地：鹿嶋市
形態：楕円

豊田スタジアム



竣工年：2001
客席数：44380
敷地：豊田市
形態：正円

埼玉スタジアム 2002



竣工年：1998
客席数：63700
敷地：さいたま市
形態：その他

